

日 時	令和6年11月21日(木) 11:00~12:00 第5回経営会議
出席者	平原副市長、伊地知副市長、大久保副市長、佐藤副市長、技監、政策経営局長、総務局長、財政局長、市民局長、中区长
欠席者	脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長
議 題	1 横浜国際プールの利活用について【にぎわいスポーツ文化局】
議 事 要 旨	<p>【論点】 横浜国際プール再整備事業に関し、令和6年3月の経営会議で了承された方針を基本としつつ、市民意見等も踏まえ、以下のとおり整備する。 (1) より多くの方に利用いただけるバリアフリーにも配慮した練習用プールの整備 (2) 駅からのバリアフリー対策としての斜行モノレール整備</p> <p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意見募集結果等を踏まえ、通年スポーツフロア化での再整備を行う。 ・サブプール機能向上については、観客席の増席、インクルーシブな施設としての諸室やバリアフリー経路の確保に加え、新たに練習用プールを整備する。 ・縣市水泳団体からは、メインプール存続の強い要望があるとともに、素案に対する大会継続への課題が示されている。 ・パラ水泳関係団体からは、メインプール存続の要望がある一方で、本改修内容により一定レベルの大会実施は可能であるとの意見を得ている。 ・北山田駅から施設までのバリアフリー改修として斜行モノレールを整備する。 ・PFI手法で施設改修と練習用プール増築、屋外遊具、斜行モノレール整備を行う。 <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の事業費は想定であり、精査を行いながら、債務負担行為の設定の事前段階で十分な庁内協議を行うこと。 ・改修により結果的に、県レベルの大会も開催できる施設にもなり得ることから、神奈川県費用負担についても検討すること。 ・事業費と見込まれる収益について、具体的な根拠に基づき積算を行い、全体経費の圧縮など内容を精査すること。 ・受益者負担の適正化を踏まえ利用料金見直しだけでなく、施設の高規格化に伴う利用率向上を見込み、民間活力の更なる活用検討による収支改善・向上を織り込むことで市費負担の軽減に向けた検討を進めること。 ・バリアフリー対策については施設利用者の意見も踏まえ、運用面で持続可能な対策の検討を進めること。 ・屋外遊具や斜行モノレールを含め、PFI事業実施にあたってはBTO方式だけでなくBOT方式を含めたあらゆる事業手法も含めて検討を深めていくこと。 <p>【結論】 <u>主な意見を踏まえつつ、局案について了承。</u></p>